

こども家庭支援論③④

家庭支援の方法と ソーシャルワーク的支援の実際

東北こども専門学院
担当：鑑さやか



保育所における保護者支援の目的とは？

「子どもがその子に応じて心身共に健やかに育つこと」

そのために必要な支援は・・・

*保護者の子育て力が向上するようにアドバイスする

*保護者の労働を支える

*家庭生活が円滑に送れるように支援する など



保護者支援は保護者をエンパワーすること

保護者をエンパワーするとは？

- *保護者のもっている力をさらに向上できるように働きかける
- *保護者が自分で気づいていない力をに気づいてもらうように働きかける
- *その人の力が不十分な場合にはそれを補うように働きかける



保育所と家族の連携 事例 1

- *保護者懇談会や手紙などで「お泊り保育」のねらいや実施に向けての準備などを知らせる。日々の保育のなかで子どもたちと一緒に準備を進めながら、お泊り保育当日の出欠をとる。
- *出欠表が出ていないAちゃんの母親に確認すると、「出席する人だけ持ってきてくれればいいですよ。うちは欠席です」との答えが返ってくる。保育士が、子どもたちと準備を進めていて、みんなお泊り保育を楽しみにしていることを伝えると、「考えてみる」との返事が返ってきた。
- *数日後「夕食だけなら参加できる」という返事があり、保育士は「無理には言えないが、その後すぐ宝探しやキャンプファイヤーがあるので、そこまで参加できないか」と話すと、「それなら泊まらせる」と言い、翌日はピアノのレッスンがあるのでそれに間に合うように早めに迎えに来てもらうことで落ち着く。

保育所と家族の連携 事例 1

- *保育士は、参加できないかもしれないと心配しているAちゃんに、みんなより少し早めのお迎えだが参加できることを話すと、安心して張り切って準備を進める。
- *お泊り保育の前日、母親が「明日は夕食を食べてすぐ帰りたい」という。保育士はAちゃんがお泊り保育を楽しみに準備に参加してきたことを再度告げると、しばらく考えてから「参加する。次の日のお迎えは朝食を食べる前に来る」というのでそこで折り合いがつく。
- *お泊り保育が終わって、週明けに母親から「お疲れ様でした」と挨拶される。



保育ソーシャルワークとしての保護者支援

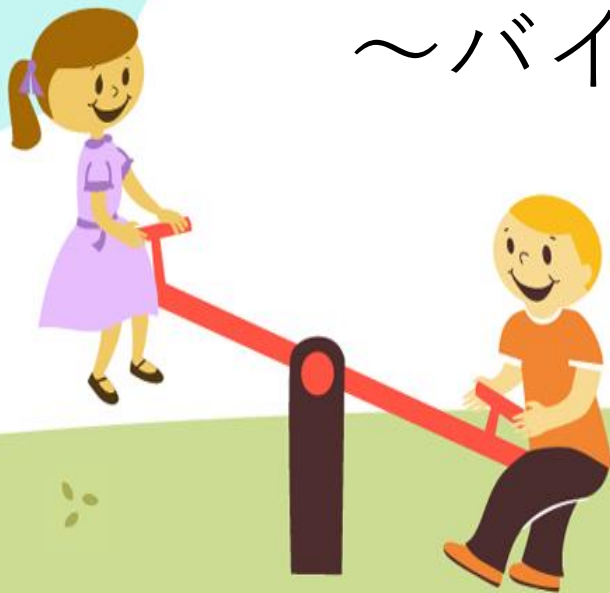
*保護者の子育てや家庭の相談にのったり
アドバイスをする

*必要な場合には他の機関や施設を紹介する

など



ソーシャルワーク的な援助の視点 ～バイステックの7原則～



1 「 _____ 」

一人ひとりの問題としてとらえる

その人が持つ、様々な事情を尊重する



2

「 クライアントの自己決定を促して尊重する

クライアント自身が何を選択するかを決める
援助者の役割は、利用者が自ら決定できるように
支援をする



3

「受け止める」

保護者の言動や態度をそのまま受け入れること



4

「

一方的に批判しない

利用者自身の価値観や考え方を尊重する
援助者は自分の価値観で利用者の行動を批判しない



5

「感情表出を大切にする」

保護者が自分自身の感情を（負の感情も含めて）
率直に表現することができるように、
意図的に働きかける



6

「安心感をもってもらえるかわり」

保護者の訴えや感情を汲み取り、
共感を持って理解しようと努める



：秘密を保持して信頼感を醸成する

保護者に関する情報は、
本人の承諾なしには他者に開示しない



保育者に必要な保護者支援の視点

1. 居心地がよく、安心感のある環境づくり

*子どもが毎日楽しく登園し、子どもたちと遊び、
保育者を信頼して自分らしく生活できる環境

→子どもの情緒を安定させる

*子どもの発達に応じた遊具設定や
落ち着ける保育室の環境整備、安全に過ごせる環境、
健康や衛生に配慮をした環境

→子どもにとって居心地のよさや安心感を与える



保育者に必要な保護者支援の視点

1. 居心地がよく、安心感のある環境づくり

*居心地のよさは物的な環境だけではなく、人も重要な環境

→保育士の表情やことば、態度など

→自分の言動が相手にどのように受け取られているのか？

ということにも配慮する必要がある



どんな環境であれば

居心地がよいでしょう？

安心感がもてるでしょう？

* 「_____」

いつも笑顔を絶やさない、世間話が気軽にできる関係、
あたたかい視線を感じる、まずは話を聴こうという姿勢がある、
観察力をもっている、寛容さがある、保育者の声が静かである、
保育者の動作が粗雑でない などなど

* 「_____」

緑豊かな園庭、子どもが楽しんでいる姿を見ることができ、
ほっとしたいときに気軽に利用できる椅子やベンチがある、
リラックスできる場所を設けてある、音が騒がしくない、
園舎が清潔である などなど

保育者に必要な保護者支援の視点

2. 人と人がつながる関係づくり

*保育士には関係づくりを自然発生的に任せるのではなく、
人と人がつながれるような機会を設定することも求められる

*保育士と保護者が話しやすい関係

→子どもの話を聞いてほしい、
悩みを相談したいという気持ちにつながる

* 保護者と保護者の交流をつなぐ存在

→子育ての悩みを話し合ったり、協力し合える存在
共に子育てする仲間だという仲間意識を育てる



保育者に必要な保護者支援の視点

3. 問題や課題に気づく視点

：専門的知識・関係性・観察力

保護者との関係づくりができてくると、

- ・ 家庭内の子育ての様子や親子関係
- ・ 家庭事情などにも気づくことがある
- ・ 保護者の様子がきになる
- ・ 何か困っていることがあるのではないか
- ・ 子どもの様子がきになる

など”_____”が得られるようになる



保育者に必要な保護者支援の視点

3. 問題や課題に気づく視点

：専門的知識・関係性・観察力

“気づき”を得るための3つの視点

①保護者と「_____」ができていること

保護者の課題や問題に気づいても、保護者が信頼して話ができるという関係がそれまでに築かれていないと、保護者は保育者に相談しようとは思わない

②保育者が「_____」をもっていること

専門的知識を身に付けることで問題を発見する力が養われる

③「_____」があること

保護者の表情などの変化、いつもの話の様子とは違った雰囲気、保護者への対応の変化などの変化に気が付く

保育者に必要な保護者支援の視点

3. 問題や課題に気づく視点

：専門的知識・関係性・観察力

“気づき”を得るための3つの視点
～必要とされる専門知識～

* 子どもの発達・育ちへの理解などの知識

* 現代家族への基本的理解

(子育て環境の変化、現代家族における諸問題など)

* 虐待・DVなどの基本的知識

* ジェンダーや差別への理解

* コミュニティワークへの視点

* 福祉制度や行政組織などの知識

* 対人援助・ソーシャルワーク的サポートの理解



ソーシャルワークのアプローチ エンパワメント

援助者の役割とは・・・クライアント自身が

自分で問題解決することを援助すること

その役割を果たす際に必要となる概念とは・・・その1：「_____」

主体的な生活を諦めた無力状態（パワーレス）に陥った人々が、

再び、本来持っている力・パワーを取り戻し、自分たちの問題を自分たちで解決していけるよう、その能力を強めていこうとする援助。

「_____の援助観」が根底にある。

自分自身で問題を解決する機能が弱まっている保護者に対してすることは？

* クライアント本人が自分の存在に意味と価値を見出せるように働きかける

* 現実を直視する作業を支える

* 変化に向けた最初の一歩を支える

これらのアプローチが求められる

ソーシャルワークのアプローチ 本人主体で援助を進めることの意味

ex) クライアントがアセスメントに参画した場合

クライアント自身によって自分や自分を取り巻く環境について明確にする



その後の援助過程全体にクライアント主体の流れをもたらす

クライアントがプランニングに参画しない場合

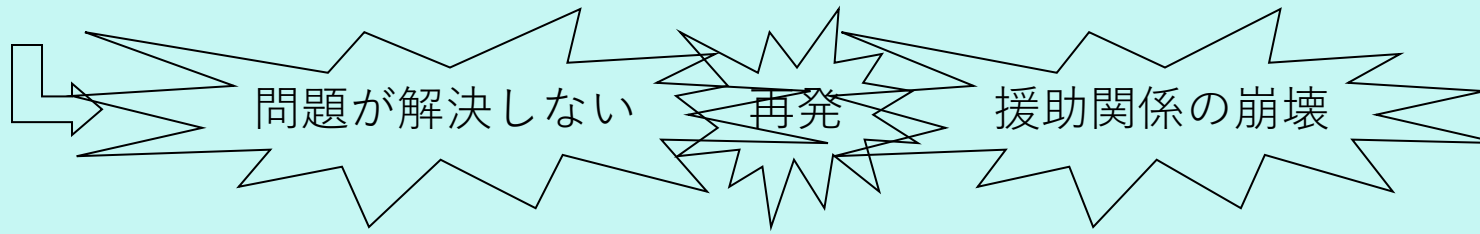
クライアントをエンパワメントする機会

問題解決技術の向上機会

} 取り上げることになる



クライアントの自己決定の権利を侵害することとなる



ソーシャルワークのアプローチ ストレングス視点

- *基調としてのポジティブ思考
- *本人と環境に存在するストレングス活用
- *ストレングスを重視した問題解決過程
- *本人に合致したサポートシステムの形成と活用

その2： 「_____」

援助者がクライアントの「_____」に焦点を当ててのではなく、
上手さ、豊かさ、強さ、たくましさ、資源などのストレングスに
焦点を当ててことを強調する視点であり、援助観

従来のソーシャルワークの実践は利用者の「弱さ」に焦点を
当てていたことへの批判から、人や家族、グループ、コミュニティが
「_____」に視点を置いたソーシャルワーク援助

ソーシャルワークのアプローチ ストレングス視点をもちいた声掛け

個人・家族・グループ・コミュニティには、

「できること」「強み」「長所」があるという視点



クライアントを取り巻く環境には活用可能な社会資源があるという視点
に基づき援助していく

ex) クライアントのストレングスを引き出すためのヒント

「とてもがんばってこられたのですね」

「よくやってくれましたね」

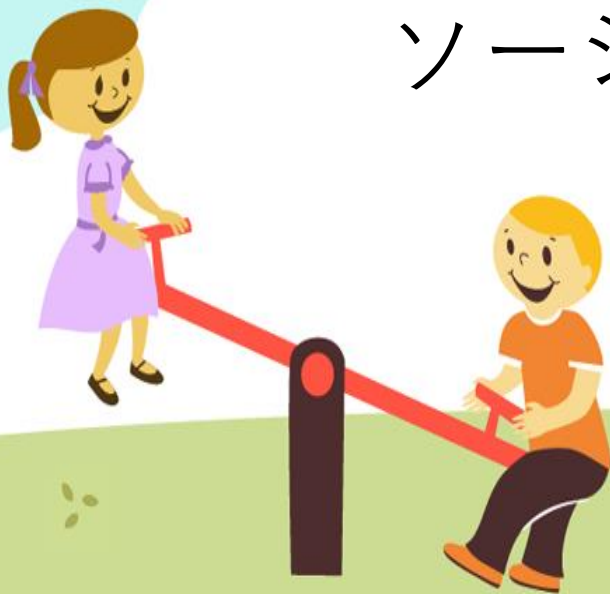
「あなたのこのようなところはとても良いと思います」

「あなたはこのようなことができる人なのです」

「あなたは、・・・だから、自分をだめだと思っておられるのです。でも私は
そう思う必要はないと思いますよ」

「誰だって、そんなことがあったら、うまくやれませんね。でも、その中でよく
やってくられたと思いますよ」 など

ソーシャルワーク的支援の実際

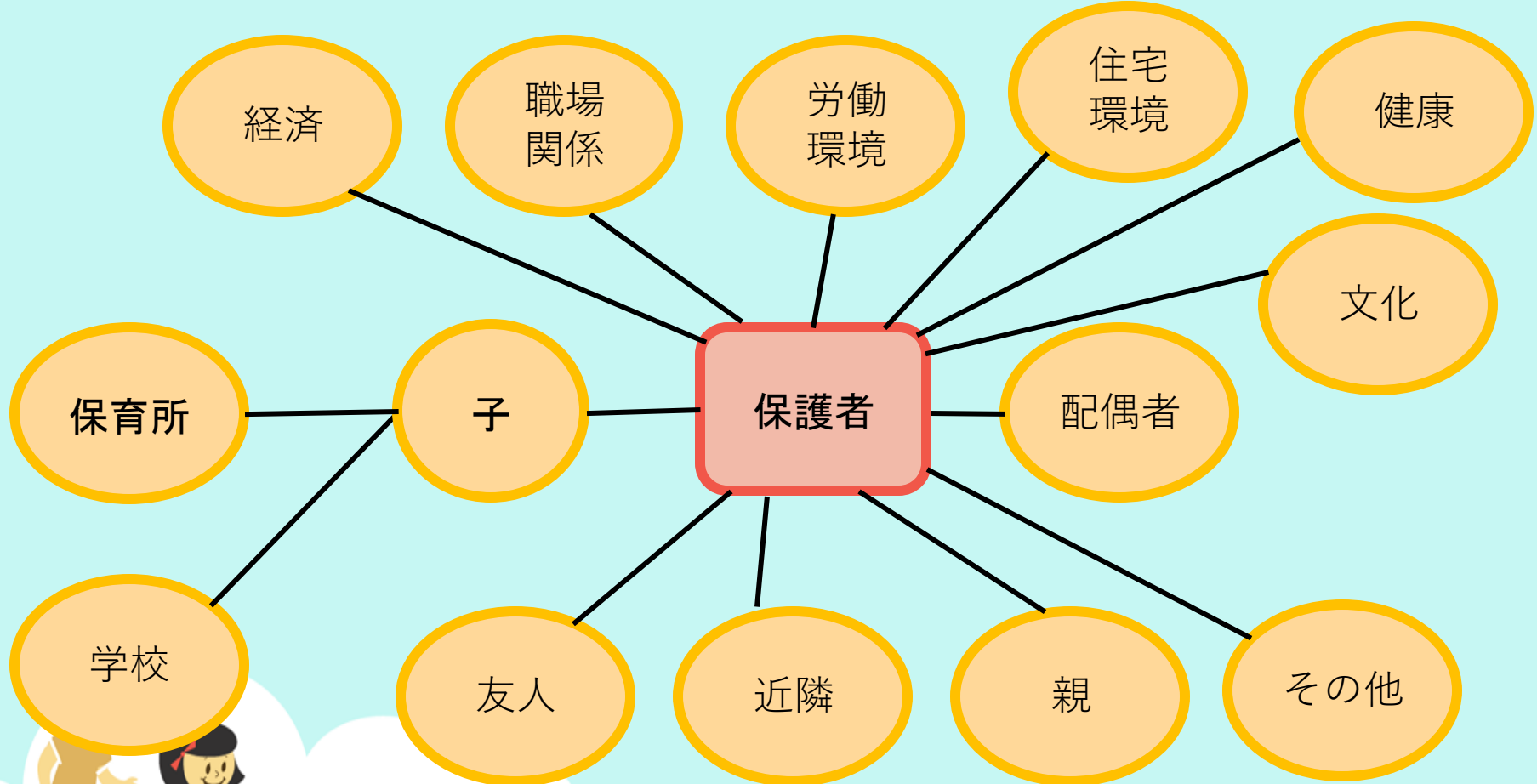


課題や問題を多面的にとらえる

課題の解決を図るには、
最初に要因や原因を決める（決めつける）のではなく、
課題が生じた「_____」をできる限り
「_____」から見てみるのが重要



課題や問題を多面的にとらえる



援助過程

多面的にとらえた情報

→見えてきた事実

→問題の所在をはっきりさせる（分析）

→実際に必要な援助

（誰が、どこで、いつまでに、何を、どのように）

→援助によって変化したことを明確化する

→問題解決またはさらなる援助へ

→次の段階の援助過程へ

→問題解決の方向への援助



事例 2

3歳男児。

保育所に登園後、子どもがなんとなく元気がなく、部屋の中で1人で遊ぶでもなく過ごしている様子がきになっている。このような様子が頻繁にあり、担任保育士は子どもの生活リズムに問題があるのではないかと思って、保護者に家庭の様子を聞いてみた。すると子どもが夜遅くまでテレビ、ビデオを見て過ごしており、朝もすっきり起きられないので、朝食もしっかり食べることなく登園していることがわかった。

